

# 学校歴と性的指向が就活生の評価に与える影響

—インターセクショナリティによる差別の検討—

○寺嶋 美葵・森永 康子

(広島文教大学 人間科学部)

## 問題と目的

現代の多様な差別・偏見を研究する上で、インターセクショナリティ（ジェンダーやエスニシティなど様々なカテゴリーが関連し交差すること）が重要である。日本は学校歴社会と言われ、架空の刺激人物に対する印象を検討した心理学の実験でも、入試難易度が高い大学の学生はそうでない大学の学生より、社会的望ましさでは高く、好意度では低く評価されていた（佐々木，1997）。また、架空の大学生の履歴書を用いた検討により、同性愛者は異性愛者よりも、採用の際に差別を受ける可能性が示されている（Mishel, 2016）。本研究では、学校歴と性的指向のインターセクショナリティについて検討する。学校歴が低い同性愛者が採用場面で最も差別を受け、低く評価されると予想する。

## 方法

**要因計画：**学校歴（2:高，低）×刺激人物の性的指向（2:異性愛者，同性愛者）×参加者の性別（2:男，女）の3要因参加者間計画。**参加者：**大学生242名のうち、シナリオを適切に読んだ異性愛者166名（男性91名，女性75名）を分析対象とした。**シナリオ：**就活を行なっている男性大学生（刺激人物）の性的指向と学校歴がわかるようなシナリオを4種類（学校歴×性的指向）作成した。学校歴は入試難易度の高低で操作した。**手続き：**参加者に「自分がある企業の人事担当者になったところを想像してください」と教示したのち、シナリオの一つを提示し、刺激人物の印象を好意度（感じの良い，優しい，親しみやすい），力動性（積極的な，意思が強い，決断力がある），社会的望ましさ（有能である，知的である，人に尊敬される）の3次元で尋ねた（SD法，4件法）。さらに，採用可能性（自分が採用担当者だったら，この人物を面接に呼ぶだろう，など4項目）を6件法で尋ねた。

## 結果・考察

各測度の記述統計をTable 1に示した。各測度について3要因の分散分析を行ったところ，好意度において性的指向の主効果（異性愛者>同性愛

者; $p=.001$ ），力動性において3要因の交互作用( $p=.028$ ，下位検定では有意な結果なし)，採用可能性において，学校歴の主効果( $p=.026$ )，性的指向の主効果( $p=.003$ )及び学校歴×性的指向の交互作用( $p=.022$ )が有意であった。交互作用の下位検定の結果，学校歴高条件において異性愛者は同性愛者よりも採用可能性が高く評価されていた（Fig 1）。

学校歴が低い同性愛者が採用場面で最も低く評価されるという予測は支持されなかった。学校歴が低い場合は，性的指向で有意な差がなかったことから，性的指向によって採用可能性が変わることがないことがわかった。また，同性愛者は，学校歴の影響を受けず，採用可能性に有意な差はなかった。

このことから，学校歴が高い同性愛者は，本来得られるはずの学校歴による恩恵を得ることができていないため，社会的地位が高い層で差別が起きていることが示唆される。

Table 1 各測度の記述統計

刺激人物	参加者	好意度		力動性		社会的望ましさ		採用可能性		
		M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	
学校歴低	異性愛者	男性	3.76	0.33	3.76	0.46	3.32	0.46	4.99	0.59
		女性	3.54	0.35	3.62	0.33	3.26	0.53	4.79	0.78
	同性愛者	男性	3.23	0.57	3.53	0.59	3.18	0.51	4.68	0.72
		女性	3.48	0.46	3.68	0.40	3.42	0.49	4.94	0.65
学校歴高	異性愛者	男性	3.58	0.39	3.63	0.38	3.53	0.50	5.45	0.52
		女性	3.63	0.37	3.75	0.33	3.53	0.32	5.32	0.65
	同性愛者	男性	3.36	0.55	3.84	0.28	3.32	0.36	4.73	0.90
		女性	3.43	0.44	3.67	0.46	3.33	0.50	4.88	0.58

Fig 1 採用可能性における学校歴×性的指向の交互作用

